



アート教育の実践と展開について ともに学ぶ研修会

「教育」や「アート」に関わるさまざまな立場のみなさんで「アート教育」の実践と展開について、ともに学びあい、つながりあうことを目的とした研修会です。現在、さまざまな分野で注目されている「ワークショップ」「アウトリーチ」をキーワードに、教育関係者、劇場・音楽堂関係者、実演家・演奏家、学生、NPO等が一堂に会し、教育をはじめとした様々な「学びの現場」におけるアートを活かした実践力の向上をめざします。

今回で5回目となるラボのテーマは「**ふりかえることの大切さ、効果を学ぶ**」。
国内有数の講師によるワークショップを「素材」として体験していただき、その後、アートの多様性を活かしたプログラムの構成や、参加者に配慮した進め方、目的達成に向けたデザインなどについて、専門家と共にふりかえり、考えます。



各種情報展示を同時開催

- 三重県総合文化センターが取り組む教育普及事業「キッズアートプロジェクト」の事例紹介
- 三重県生涯学習センターが取り組む学校向け文化体験事業の事例紹介 など



私たちの目指す「アート教育」

アート教育といっても、「優れた実演家や演奏家を育てる (Arts Education)」という意味ではありません。「アートで教育分野を豊かにする (Arts In Education)」という方がしっくりくると思います。

大学をはじめとした芸術系専門機関が少ない三重県においては、県立文化施設である私たちに、その普及や育成の役割が求められていると考えます。そして、アートの力を必要としているさまざまな現場と、アートに関わる様々な組織団体(個人)とをつなげ、より豊かな学びを提供していくことをめざし、様々な事業の推進に取り組んでいます。

program プログラム

ふりかえることの
大切さ、効果を学ぶ

9:30

受付

10:00

開講 オリエンテーション

10:10

1 基調講演 (60分)

ワークショップ型の“学び”を活かす ふりかえりとは？

講師：苅宿俊文 (青山学院大学教授)

知
る

11:10

2 ミエ・アート・ラボ修了生によるワークショップ試演会 (60分)

これまでの「ミエ・アート・ラボ」修了生2名が、当時の演劇ワークショップで学んだ内容を活かし、三重県男女共同参画センターとともに、子どもに多様性を伝えるプログラムを開発中です。その途中経過を発表します。

監修：南波 圭 (NPO法人演劇百貨店)

見
る

昼食休憩

13:00

3 ワークショップ体験 (90分)

「ダンス」を学ぶ(伝える)ための ツールとして意識したワークショップ

講師：ダンスカンパニー セレノグラフィカ

※ワークショップ中は、動きやすい服装でご参加ください。また、裸足になる場合があります。

感
じる

14:45

4 体験したワークショップをふりかえります。

① ファシリテーター(伝える側)の視点から

講師：ダンスカンパニー セレノグラフィカ

ふり
かえる

15:30

② クライアント(受ける側、活用する側)の視点から

講師：苅宿俊文 (青山学院大学教授)

16:30

5 パネルディスカッション (90分)

ワークショップをふり返って 見えてくるもの

パネリスト：ダンスカンパニー セレノグラフィカ

コーディネーター：吉野さつき (愛知大学准教授)

秀 和代 (Hide Dance Lab 主宰)

助言者：苅宿俊文 (青山学院大学教授)

長谷川峰子 (三重県総合文化センター職員)

考
える

※ふりかえり①②については、受講者の希望に応じて「参加」または「聴講」を当日に選んで受講いただけます。